

平成30年度 第2回 独立行政法人地域医療機能推進機構仙台南病院地域協議会議事録

日 時：平成30年9月27日(木) 19時00分～20時00分

場 所：病院3階 第二・第三会議室

出席者: 栗城 盛一 (仙台市太白区保健福祉センター 所長)
小久保真由美 (名取市健康福祉部介護長寿課 課長)
芳賀 和明 (名取市健康福祉部保健センター 所長)
浅沼 達二 (仙台市太白区医師会 代表幹事)
丹野 尚昭 (名取市医師会 会長)
根本 弘子 (下前田東町内会 副会長)
秋山 征吾 (下前田前沖町内会 会長)

朝倉院長・秋野副院長・遠藤副院長・宗像事務部長・鈴木看護部長・開沼副看護部長・
松浦地域連携室長・日野医療社会事業専門員・高橋総務企画課長・高谷総務企画課員(事務局・書記)

議事内容(高橋総務企画課長進行)

・仙台南病院協議会次第にそって

1. 開会

2. 院長挨拶

外部委員の皆様には、ご多忙のところ、また、遅い時間にもかかわらず仙台南病院地域協議会にお越し頂き、大変ありがとうございます。

地域協議会の開催の一番の目的は、地域の方々の当院に対するご意見、ご要望を聞くということであり、ますので、皆様方から率直な意見を頂戴できれば幸いです。

本日は、よろしくお願い致します。

3. 委員の紹介

本日出席頂いた各委員について、外部委員、内部委員の順に紹介を行った。

4. 概況説明等

<概況>

(1) 施設・病棟運営状況等(宗像事務部長)

施設運営状況として、病床数・標榜診療科・患者数(病院・附属老健)・健診利用者数について
病棟運営状況等として、病棟別1日平均入院患者数と稼働率・診療科別1日平均入院患者数・
診療科別医師数・地域連携の状況(紹介患者数・紹介率・逆紹介率・登録医数・救急車受入状
況)について、資料に沿って説明。

- (2) 平成29年度及び平成30年度における地域包括ケア推進に向けた取り組みと活動計画について(鈴木看護部長)

平成29年度地域包括ケア推進に向けた取り組みとして、PRのための広報誌等の発行、地域の方々からの情報収集と情報交換、地域包括ケアを担う方々への情報提供と支援の3点について取り組んできたことを、資料に基づき説明。

また、平成30年度についても、この3点について継続的に取り組んでいくことを説明した。

<取組の紹介>

- (3) ロコモ・フレイル外来講演会について(開沼副看護部長)

中田老人クラブ連合会からの依頼により、介護予防に向けた取り組みとして6月15日に実施した講演会「ロコモフレイル外来について」の概要を、資料に基づき説明。

- (4) 介護老人保健施設の地域貢献活動について(日野医療社会事業専門員)

当院附属の老人保健施設の概要、入所者の在宅復帰支援の状況、地域貢献活動について、資料に基づき説明。

- (5) 認定看護師の同行訪問看護の実施について(松浦地域連携室長)

当院に在籍している4分野(皮膚排泄ケア・がん性疼痛・糖尿病・認知症)の認定看護師と他の医療機関、訪問看護ステーションの看護師が同行して患者訪問して、看護又は療養上必要な指導を実施している同行訪問看護について、資料に基づき説明。

5. 質疑応答及び意見要望等

地域の医療機関の方々の声から当院との連携を考える(松浦地域連携室長)

平成29年度に開催した「連携の集い」に関して、開業医に当院との連携について事前アンケートを実施しており、その結果について資料に基づき説明。

司会を朝倉院長へ交代

:朝倉院長

皆さんからのご意見ご要望、今日の感想、日頃から思っていることなんでも構いませんのでお1人ずつよろしく願います。

:栗城仙台市太白区保健福祉センター所長

昨今の私どもの状況を申し上げますと、昨年は5万2千人くらいが65歳以上で、22万4千人位人口がおりますので割合はだいたい23%くらいだったんですけど、1年後には5万4千人くらいになりまして塩釜市の人口そっくり、要介護認定を受けている方はだいたい1万人くらいいらっちゃってそのうち7千人くらいが要支援の状態です。その方たちに対してはやはりどうしようかというのが非常に課題として残ってまして、一旦介護状態が悪くなるともう取り返しがつかない。実を申しますと昨年フレイルという言葉を院長先生からお聞きしまして何のことかって実はありまして、そこから自分が不勉強だったことを思い知る一年なんですけど、いかに私が不勉強だったかというのがわかったのと、最近の国の動きは地域包括ケアという中で、このフレイルに対する取り組みをどうするかというのが大事になっていて、行政としては地域包括ケアさえ満足にできていないのにさてどうしようかという悩みを抱えておりまして、本日のこちら様の取り組みを考えてみると正直助かるなというところなんです。特に行政としては縦割り行政しっかりしておりまして、いいのか悪いのかありますが、高齢者と健康増進というのはしっかり分かれておりまして、この中

で取り組んでいるのは一緒に仕事ができないかということ、それこそ皆様と一緒に取り組めないかということを考えているところですが、これがなかなか思ったようにいかないという現状の中でこちら様の取り組みを見せていただくと私どもに直接はない部分もあるんですが、実は地域の皆様が中田市民センターのアンケートの結果でこれを活かしてという言葉がありました、そういうのは助かるなあと私どもはひょっとして問題が出てきて個人々人に対応するのであって、問題が見えない出現する前の対応をどうするかということは、我々行政としてはなかなかできない人的にも無理があつてそれは言い訳にしかならないんですが、非常にこれからの課題としては考えておりましてこちら様には是非私どもにもご協力をいただきまして、また私どももご協力をさせていただきたいと思っておりますので、私どもを上手い具合に使っていただくことも考えていただく必要があるのかなと思っております。

:朝倉院長

ありがとうございます。貴重なご意見頂戴しました。先日私東北フレイル研究会という医療関係者向けですけどそこに東大のフレイルの第一人者の先生を講演に呼んだんです。それで先生は厚労省の政策を推進する委員の1人で、介護予防の仕組みというのを全国に広める取り組みをしておられます。医療関係者が高齢者の方にいろんなご説明をしたり実際にトレーニングしたり、いろんなことを直接教えるということも大事なんですが、なかなか人手も足りないですし時間もかかりますのでそう何回もできるわけではございません。それで先生が推進しているのは実はボランティアです。高齢者、フレイルの年齢に差し掛かっている70代くらいの健康な高齢者の方にボランティアになってもらって、自身のフレイル予防もそうですけど周りの方のフレイル予防に尽力していただくというような仕組みを作つて、これを全国のいろんな都市で広げていて実は東北は全く手付かずなんです。秋田が唯一今度始まるんですけど、それ以外は全く東北地方は手がつかない状況で、行政が音頭とつて頂かないと進まないというそういう仕組みでして、是非太白区で先陣を切つて頂くと、名取市も続いていただくといいかと思っておりますのでよろしくお願い致します。

:小久保名取市健康福祉部介護長寿課課長

今日は介護予防に向けた取り組みということで、ロコモフレイル外来の結果を聞いたことは非常に参考になりました。昨年参加させていただいた時にこの外来の紹介がありましたので、今回はどういふ実績なのかということで楽しみにして参りました。名取市もちろん介護予防に向けた取り組みを行っております。地域づくりということも含めての介護予防が大切だと思っておりますので、それについては一生懸命取り組んでいるところです。国は昔は介護予防と言いましたら要介護にならないための介護予防でしたけれども、今はもちろんそれも含めますけれども地域とどういふふうに関わっていくかその中で、生きがいをどうやって見つけるかそういうことがやっぱり高齢者には大切になってきております。介護予防も少しずつ考え方が変わってきているということで、今後の介護保険の中では地域づくりの中に保健師を関わらせて、その中で健康状態であるとか口腔ケアであるとかそういうものも一緒にやっつていこうというような国の指針が出ているようで、少しずつ変わってきていると思っております。先程ボランティアという話もありましたが、介護予防に対しては介護予防サポーターということでボランティアの育成をしているところです。若い人ではなくて同じ年代の方で元気な方がボランティアとして活躍したいということで、講座のほうに参加して頂いております。現在修了した方が116名おまして、全員の方が活躍されてるわけではないのですが、少しずつそういう取り組みをしていきたいなあと思っております。あとは認知症についてということで今後認知症の患者さんが増えるということで、認知症にやさしい街づくりをしていかなければならないということで、そちらのほうも少しずつ力を入れているところです。また、医療と介護の連携につきましても医師会の会長先生のご協力を得ながら少しずつではありますけれども進めているところではあります。

:朝倉院長

認知症の方もサポーター制度というのがあつて、なかなか今広がつてないんですけど、見守りとかそういう視点で地域住民の方に実際に携わつていただくというふうな流れがあつて、仙台でも仙台医師会

が中心となってやっていますが今後いろんなサポーター、認知症のサポーターもそうでしょうし、フレイルのサポーターもそうでしょうし、サポーターの養成ということについては是非我々も参加させていただければと思います。

: 芳賀名取市健康福祉部保健センター所長

私は行政職を30年近くやっていますが、医療関係の事務は今年の4月から初めて携わっております。こういった機会に医療関係の皆さん、行政の同じような医療関係の仕事をしている皆さんのご意見を聞く機会があって、今は勉強をしているような段階でありまして、ご意見ということであまり専門的なことは何も言えない状態です。今は皆さんからお話を聞いてひとつひとつしみじみながらいきたいと思っています。今後ともこういう機会があれば積極的に参加させていただいて、皆さんのご意見を聞いていきたいと思っています。

: 浅沼仙台市太白区医師会代表幹事

太白区では5年前から骨粗鬆症と認知症について予防していきましようという動きが始まりまして、骨粗鬆症については年1回市民の皆さんを呼んで開催しております。認知症については、西多賀の先生にお願いして年1回包括支援センターの皆さんをお呼びして会合を開催しております。

外来通院できない人に対しての訪問歯科や巻爪、爪の白癬の往診について行政の方とタイアップしながら何とかやってもらえないかよろしくお願ひします。

: 丹野名取市医師会会長

いつも連携室はめてますけどすばらしいと思います。やっぱり仙台南病院の特色というのは、200床の中小病院でそれが上手く回るというのが一番いいと思うんです。ある病院の救急外来に頼むと女性の下腹通なんか頼むと消化器ですか婦人科ですかと聞かれるんですけど、そんなの分かってたら紹介しないと云いたくなるわけですけど、連携室の人が聞くのは分かるんですけどこちらはどっちか分からないから送ってるし、自分の診療の限界だから送ってるんです。やっぱり仙台南がいいのはその辺を連携室の人にちよこちよこつて言うと、中でやってくれる。朝倉院長、両副院長先生が各科の先生にらみを効かせてごじゃごじゃ言わずに受けると言ってるんじゃないかなといつも感謝しております。こっちはなかったらこっちに回せばいいだろうと思うんですけど、やはり大病院になると出来ないというのもわかります。いい点と悪い点、専門科に行ってもはまれば強いんですけど外れたら何の役にも立たないということですね。そういう点があります。その点を活かしていくのは仙台南病院が伸びていく一番いいパターンなんだろうと思います。例えば、イレウスなんかこの間引き取っていただきましたけど、普通の病院じゃ内科ですか外科ですかと聞かれますので、僕は外科だと思うんですけど病院によっては内科で診るのでそんなのお宅で考えることでしょと思わず言いたくなるんですけど、こっちは電話の前で頭下げる立場なのでそんなのは言えないんです。そういうの分かっててやってくれてるっていうのはよく医者同士分かるんですね。

最後に一つ質問なんですけど老健の看取りっていうのはどんなふうになっているのかだけちょっと教えていただけますか。帰さなくて看取りだから看取っちゃうというのか、在宅に戻れば戻してそっちで看取ろうと思っているのか、実情をお願いします。

: 日野医療社会事業専門員

看取りのお話いただきましたが、看取り支援を始めたきっかけといいますかそれは何年も前からではあるんですが、やはり従来の老健施設今でこそ在宅復帰、お家に帰すという形が強くなってますが、やはり今までですと特養の施設、あくまで老健に長らくいる方が正直多かったのが事実でやはりその間、施設を待っている間に何年も経過した中で、自然にお食事とかそういったもの食べなくなってきたとか、状態が低下したといったさきの中でその部分が治療難いになっていった場合先生の方でお話しあった場合に、慣れたところでそのまま看取ってくださいって要望がすごく増えてきたのが事実です。その点でうちの施設

では病院が附属しているという点で看取りの例を増やしている状況が一点と、あとは癌の末期の方でも疼痛の緩和そういった部分も病院と一体となってやってみようという観点で、そういった方の看取りも行っている状況であって、要望というかニーズが増えてきているという観点で私どもの施設だとそういったものも積極的に受入れて行っています。

:丹野名取市医師会会長

ご家族の方とか要望があれば原則受けるみたいな形なんですか。

:日野医療社会事業専門員

要望とあとは施設のほうで必ずそういった方のケースのところで、皆さんで検討して要望に沿うような形ができるとなれば受け入れをして対応してるという形でした。

:根本下前田東町内会副会長

難しいお話が続いていましたので私のほうから下前田東町内会の実情をお話したいと思います。すぐ隣の隣組の町内会なんですけれども、今年70歳以上になった方が140人いるんです。戸数としては302、3戸くらいの戸数なんですけれども、会員は全部で500人くらいで1人暮らし、2人暮らしの方も結構多い、若い人も入っては来ているんですけども、10人近く今年は亡くなってしまいました。

うちの夫も通院なんですけど6月からこちらのほうにお世話になっています。この間朝8時半前には出て12時半になっても帰ってこなかったんです。何してるのかなあと心配になりましてこちらに電話したところ、個人情報なので治療が終わったかどうか教えることはできないって言われたんです。うちの者が聞いても帰ったかどうかというのを、治療が終わったかどうかというのを聞きたかったんですけどそのようなお答えでした。個人情報というのはどの程度のことまで言うのかなあとと思って、家族には治療は何時ころ終わりました、っていうのくらいは教えていただいても良かったのかなあって思います。

:鈴木看護部長

大変貴重なご意見でした。看護部長としてお礼申し上げます。そしてご心配おかけしてその日は申し訳ございませんでした。当院としてやはり外来の待ち時間の問題は高い優先順位であっておりますがなかなか改善できませんのは、私どもの力不足と反省しています。再度ご指摘いただきましたので改善していくように努めていきたいと思っています。

:根本下前田東町内会副会長

帰ってきてから聞いたら採血してもらってその結果が出るまで待っていたからということだったんです。それで納得したんです。

:鈴木看護部長

それでもやはり8時過ぎから昼過ぎまでになるとお待ちになっている家族様も心配しているんだということ、肝に銘じたいと思います。個人情報の件に関しましては、その辺はやはり私たちは厳守していかなければならないので、その辺をお話できなかったというのは申し訳ないんですがそれはご理解いただきたいと思っています。ただ、配慮が足りなかったなど、ご家族様が心配されているというのであればこちらからご主人様にお伝えをして、ご主人様から奥様にお電話を入れて頂くっていうような配慮はできるはずなので、その辺はちょっとまずかったねって、こういう意見もありましたよっていう患者サービス委員会っていうのがございますので、そちらのほうに議題としてあげて反省していきたいと思っています。

:秋山下前田前沖町内会会長

私のほうからは単一町内会と11町内会の連合会、その中で地域包括に関係する取り組みの状態をお

話させていただきます。一つは民生委員関係の流れが社会保険協議会のほうからの流れでいろいろ見守り活動やっていますけども、最近、町内会単位で、いわゆるサロン活動っていうんですか、大きな目で見ますと介護予防っていいですか、健康寿命を延ばすという考え方が基本になりまして、サロン活動をやっているという状態でございます。各町内会全部やっていますし、それからまとめて連合会中央のほうでも一ヶ月に4回位とかやっていますけども、その作り方がいわゆる先ほどボランティアというお話がございましたけども、町内会が協力して上から押し付けるというのではなくて当初はいわゆるボランティアで、要するに数人のリーダー的な人を集めてそれからスタートしています。最近いろいろ年取ってきますと体調不良とかそういうことでリーダー不足が生じますので、町内会のほうで多少バックアップするというような形でできるだけ進めたいってことで努めてやっております。ボランティアの方のリーダーの力のあるところはかなり進んでやっておられるんですけど、最近その中でも男性の出席率が悪いという問題点がございまして、いろいろ工夫はしているんですけど、先ほどのこちらのロコモフレイルっていうんですかこの中で運動のすすめというお話がございましたが、参加率、しかも男性も入ってくる参加率が多いのは運動、体操これがあるとまあ人数が増えまして男性も入ってくるというようなことがございますことから、これをすすめていただきたいと思います。

:朝倉院長

貴重なご意見ありがとうございました。当院のリハビリのスタッフが実際にはロコモフレイルの集団リハビリというのをやっているんですけど、ある程度回数をやると終了になりますのでそれ以降は地元の町内会主催のものもあるでしょうし、集団のレクリエーションは面白くないとやはり長続きしませんのでいろんなそういう機会を持っていただいて、そういうもので体を鍛えていただくというのが今の所の方針です。当院としてもそういった場に足を運んでコーチングをするというのは、全くぜひ定期的に参加したいと思いますので声かけして頂ければと思います。

6. 閉会の挨拶 秋野副院長

本日はお忙しい中ご出席を頂きありがとうございました。

各地域の方々、医師会の方に参加頂きましてロコモフレイルがかなり開催されるように期待したいと思います。本日は、大変ありがとうございました。